

創業以来初のプロパー社長になる。約40年のキャリアで現場業務を経て営業部門を長く歴任した経験を生かす。安全と品質、環境への配慮を念頭に「大林道路のファンを増やす」と意気込む。2033年に迎える創業100周年を見据え、戦略的な受注や設備投資によって経営基盤のさらなる強化を目指す。

— 就任の抱負を。

「長い歴史を持つ会社の先頭に立ち、社員と共に社会に貢献する機会をいただいたことは大変光栄だ。ものづくりを生業（なりわい）とする当社にとっては、安全と品質の確保、環境への配慮が事業の根幹である。社員一人一人が何事も自分事として捉え、顧客に喜ばれる良い仕事や製品を提供できるようにすることで、大林道路のファンを増やしていきたい」

— 施工の注力分野は、

「大林グループで連携し、公共工事および民間元請工事

大林道路

あびこ ひろみつ
安孫子 敬美氏

ファン増やし経営基盤強化

の受注を強化する。今後も国土強靱化計画に基づく投資は安定的に推移すると考えている。大規模リニューアルが進む高速道路の補修工事では、引き続き大林組と共に開発した超高性能繊維補強セメント系複合材料『ステイフクリー

』を提案していく。主要事業である舗装工事だけではなく、さまざまなインフラの補修工事や建築工事においても受注の拡大に取り組んでいきたい」

— 製品販売事業は。

「アスファルト合材製造の基幹プラントや老朽化が進んだプラントには優先して設備投資を行う。カーボンニュートラル（CN）の推進に向けては、バーナー燃料である重油の廃食油への転換を進めているところだ。当社の次世代プラントモデルと位置付ける『大分センターアスコン』

（大分市）には、さまざまなデジタルツールを連携させ、製造・出荷プロセスを自動化する出荷管理システムや製造設備を導入し、プラント運営の業務効率化や安全性の向上、温室効果ガス排出量の削減を実現した。今後はシステムのさらなる改良に注力し、基幹プラントへの展開も検討していく」

— 新規事業は。

「地域ごとの市場環境に即した事業戦略を推進する。熊本と高知、広島各県では地域子会社を設立しており、今後は地域に根差した事業の拡大を目指す。太陽光や風力といった再生可能エネルギー関連の土木工事にも積極的に取り組む、収益力を強化する」

— 今後の課題は。

「経営基盤の安定、強化に向け、引き続き人材確保と育成を進める。特に懸念しているのは協力会社も含めた担い手の高齢化だ。全社を挙げて働き方改革、処遇の改善、業務のDX化などに注力し、働きがいのある企業を目指す」

（4月1日就任）



新社長

1986年日本大学工学部土木工学科卒、大林道路入社。執行役員、本店営業部長、常務執行役員、プロジェクト推進部長、取締役などを経て2024年4月代表取締役専務執行役員。誠実、挑戦、貢献をモットーに、「凡事徹底」の心構えを大切にする。趣味は全国の神社仏閣巡り。北海道出身、61歳。

